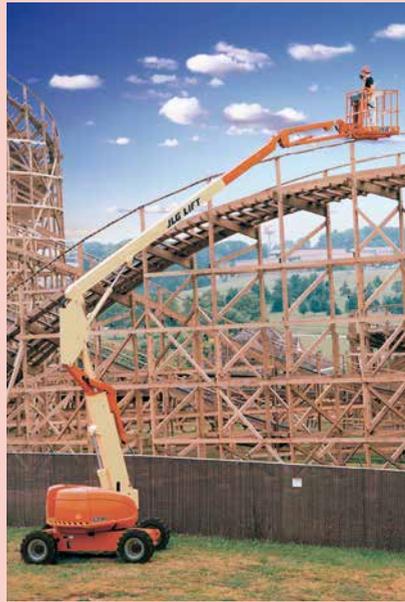




「電動ブームリフト」



「コンパクトクローラーブーム」



「直屈伸式ブームリフト」



「マストブームリフト」



「JLGウルトラシリーズ」



日本の高所作業の質を大きく変える 米国製の新鋭自走式高所作業車投入

日本製では届かない高所などでの作業を可能にする米国製の高機能、高性能の最新鋭自走式高所作業車を国内市場に投入、数々の優位点に着目した需要増を視野に営業体制を強化する。

株式会社

JLG Industries Japan

048-661-5611

埼玉県さいたま市北区吉野町1-51-2

<https://www.jlg.com/ja-jp/>

日本製は届かない最高揚程
障害物をも越える動作性能

自走式高所作業車で世界をリードする米国「JLG Industries」の日本支社「株式会社 JLG Industries Japan」が新機種を日本市場に次々に投入。日本製では届かない高所での作業の質を大きく変える可能性が出てきた。2020年東京オリンピック関連工事に伴う機械需要を視野に普及に力を入れる。

「JLG」の高所作業車の強みは、作業位置の高さだ。日本製で最も高いのは約37mだが、「直伸式ブームリフト」ウルトラシリーズの4機種は、36・58m／56・56m。中間機種の「1350SJ」は、41・15m、ブームはわずか95秒以内に最高揚程に達する。世界最大の「直伸式ブームリフト1850SJ」は、56・56mで、構造物の奥へ差し込む作業も可能にする。

もう一つの強みは、障害物をものもしない動作性能。「直屈伸型ブームリフト800AJ」は、屋根越しの作業も可能にする。「マストブーム」は、工場の組み立てラインや配管などの上下でも支障なく作業できる。「コンパクトクローラー」は、自動水平アウトリガーを採用、無理のない体勢で作業できる。「電動ブームリフト」は、逆屈折ブームを装着、頭上の障害物を避けて作業位置にセッティングできる。「マストブームリフト」は、多機能屈折ジブで限られたスペースでも楽に作業できる。

専用アプリで機械チェック
需要増見越し営業体制強化

「JLG Industries Japan」を2014年に立ち上げた代表取締役の藤本峰之さんは、機械化車両の国内大手で長年業務マネージャーを担当した経験から日本製

高所作業車に精通。日本製と比べ「JLG」製が世界で受け入れられる性能、機能を備えていることをアピールする。専用アプリで機械の状態をチェックできる保証診断機アナライザーがついていること、中古になっても買値の3分の1くらいで売れること、日本のユーザー向けに作り変えたマニュアルで簡単にメンテナンスができ、機械を直すこともできることなどの利点もあり、需要増を見越して、サービス網を拡大し、在庫車を増やすなど営業体制を強化していく方針だ。

